

小中一貫教育だより

研究主題 「自ら考え、伝え合い、深く学ぶことができる児童生徒の育成」
～小中一貫した指導の積み重ねを通して～

吉田小学校（児童数88人）・吉田中学校（生徒数53人）は、今年度も9年間を見通した小中一貫教育を進めています。具体的には、小中学校合同の行事や研修会、授業実践、授業研究会などの取組や小中一貫した指導を通して、相手と考えを伝え合いながら学びを深めることができる児童生徒の育成をめざしています。今年度は特に「自ら」考えることのできる児童生徒を育てるために、研究や活動を行っています。

★小中合同校内研究会

授業や学習に関する小中学校合同での校内研究会を、今年度は7回計画しています。第1回目は4月14日（火）に開き、今年度の研究や組織とその計画についての話し合いを行いました。今年度は、以下のような取組や研究を行っています。小中学校職員で話し合って決めました。

★★小・中学校の職員合同での取組★★

A: 授業づくり部会（小学校：村田、千々岩、福田、澤田、吉富）
（中学校：杉光、白濱、中野、坂本茜、松尾）

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりの推進

○「吉田メソッド」による各学習過程の工夫

- ・相手意識・目的意識をもった課題設定の工夫
- ・思考が深まるような「考える」・「伝え合う」過程の工夫
- ・視点を示した「振り返る」過程の重視

○合同授業研究会を通しての、小中職員の指導力向上

- ・課題の共有とそれを生かした日々の授業実践

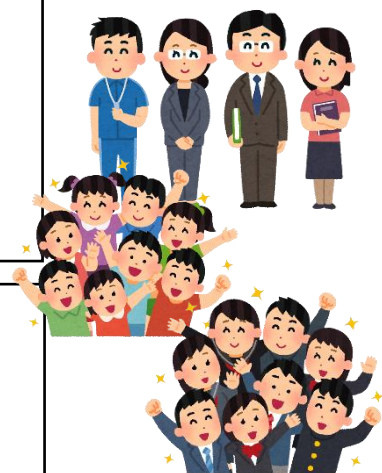
B: 学習基盤づくり部会（小学校：木原、蒲地、浦川、井手、越田）
（中学校：坂本、山口、古賀、北村、江口）

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた環境整備

○授業外での「自ら考える」「伝え合う」場の工夫

○児童生徒・職員の意識アンケート実施

○学習規律と学習環境の整備



★小中合同授業研究会 ～吉田小学校 4年1組 国語科～

「主体的・対話的で深い学び」という視点からの授業づくりを研究していくにあたり、今年度も小中合同で行う授業研究会を2回計画しています。第1回目の授業は、浦川直美教諭による吉田小学校4年1組の国語科の授業でした。「ヤドカリとイソギンチャク」という教材文を使って、文章の構成を捉える力を身につけていくことが目標です。この日は、文章の中から、ヤドカリとイソギンチャクが助け合う理由を見つけ、助け合うとはどういうことなのかを自分なりに短い文でまとめていく難しい学習でしたが、それぞれがよく考えたり友だちと伝え合ったりして、まとめていくことができました。

授業後の研究会では、考えを深めさせるための教師の質問内容についてや、「友だちタイム」における伝え合いでのより良い交流の仕方について、議論が行われました。この研究会での学びを、小中学校それぞれの日々の授業実践につなげていきます！



★ブロックでの取り組み

<ブロックとは>

◆Ⅰ期ブロック（小1～小4）◆Ⅱ期ブロック（小5、小6、中1）◆Ⅲ期ブロック（中2、中3）

吉田小・中学校では、上記のようなブロック制を取り入れる場面があります。4-3-2といったブロック制を取り入れることで、中1ギャップを解消し、小学校から中学校へなめらかにたぐくことができると共に、各発達段階に応じた目標を設定し、指導を行うことができるという利点があります。

～第1回ブロック集会の様子を紹介します～

◆Ⅰ期ブロック◆

4年生が、現在頑張っていることや、ブロックリーダーとしての抱負を発表しました。

学年目標を発表し、作っている新聞や工作、マット運動の実技などを披露しました。



感想交流では、一年生も発表していました。「早く四年生みたいになりたい」という声がありました。

◆Ⅱ期ブロック◆

学年の混ざったグループをつくり、「カードトーク」で自分のことを紹介しました。



カードには、「魔法が使えたら」「外国に行ってやりたい」となどの楽しいお題があり、それについてきちんと話すことができました。



徐々に盛り上がり、質問をしたり会話を続けたりして、和やかなひとときとなりました。

◆Ⅲ期ブロック◆

2年生から「職場体験」に関する質問をし、3年生に回答をしてもらいました。



「接客業のポイントはどんなことですか」「笑顔で挨拶をしたり、ハキハキと応対したりすることです」



今年は、職場体験が中止となりましたが、3年生が丁寧に説明してくれたので職場体験について知ることができました。